

2009年度 「学会論文賞」 授賞の報告

このたび医療経済学会では、医療経済・医療政策研究の発展を図るため、「学会論文賞」が設立されました。

この賞は、医療経済学会誌である『医療経済研究』に掲載された研究論文の中から与えられるものであり、賞状のほか、副賞として賞金（提供：医療経済研究機構）が贈られます。

2009年度は、以下の2論文が授賞され、去る7月10日開催された医療経済学会総会にて、医療経済学会会長 池上 直己先生より表彰状の、また、医療経済研究機構 理事長 幸田 正孝より副賞の贈呈が行われました。

（なお、授賞者 菅原先生は、医療経済学会雑誌の編集委員ですが、この賞の選考には一切関係していません。）

○熊谷 成将氏（近畿大学 経済学部）

「入院医療サービスの垂直的公平性と負担金の不平等度」

（授賞理由）世界の医療経済学において、健康格差がもっとも重要なキーワードとなる中で、わが国ではまだ医療サービスの分配について垂直的な公平性を実証的に検討した研究は少ない。こうした中で、本論文は、近畿地方の市町村立病院のデータを用いて、入院医療ニーズに対して、入院医療サービスの供給と負担金が垂直的公平性を充たすものだったかどうかを、ていねいに分析したものである。マイクロデータが利用できない制約の下で、欧米の先行研究に比べると、分析の対象に市町村と公立病院を選んだこと、入院医療ニーズとしてベイズ標準化死亡率を選んだこと、分析手法の選択など、すべての面において筆者の工夫が凝らされている。

○菅原 琢磨氏（国立保健医療科学院経営科学部）

「地価情報を用いた地域医療システムの価値評価 ～ヘドニック法による地域社会の「安心」の測定～」

（授賞理由）本論文は、地域医療システムの確立や充実によって地域住民がどのような便益を受け取っているのかという、これまで十分注意が向けられてこなかった基本的な疑問を明らかにしようとする試みである。いうまでもなく地域住民や社会の便益を測定することは容易ではないが、本論文では、彼らが受ける便益を直接的な（私有可能な）便益とメリット財的な便益に分けて検討することで、これまで医療の評価をめぐる批判のひとつである、そもそも個人の便益を測っているのか、地域社会の便益を測っているのかという問いにも、ひとつの回答を与えている。地域医療研究に対する新たな分析視点を提示した点も高く評価される。